

# 国際経済関係論 I

## 2. 貿易利益と貿易パターン

柳瀬 明彦

1

### なぜ貿易が行われるのか？

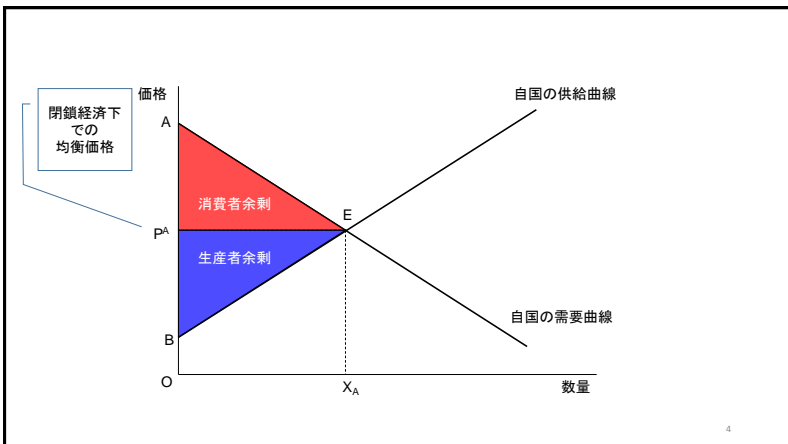
- 貿易とは何か？
  - ⇒ 国内で生産された財を外国に売る(輸出) & 外国で生産された財を外国から買う(輸入)
- ⇒ 国内の生産  $\neq$  消費
  - 国内の生産 = 消費: 閉鎖経済 (closed economy) or 自給自足 (autarky)
  - 国内の生産  $>$  ( $<$ ) 消費  $\rightarrow$  輸出 (輸入)
- 貿易をした方が、自給自足よりもその国にとって望ましい(貿易利益の存在)場合、貿易が行われる

2

### 貿易利益: 部分均衡モデルによる分析

- 部分均衡モデル: ある1つの財の市場に着目
  - 生産量: 供給曲線上で決定
  - 消費量: 需要曲線上で決定
- 資源配分の望ましさ(社会的厚生の大きさ): 部分均衡モデルでは余剰の大きさで評価
  - 社会的余剰 = 消費者余剰 + 生産者余剰
  - 消費者余剰 (consumer surplus): 価格が低いほど大きい
  - 生産者余剰 (producer surplus): 価格が高いほど大きい
- 閉鎖経済の均衡: 財に対する一国内の需要曲線 = 供給曲線の状態
  - 均衡価格を  $P^A$  とする

3



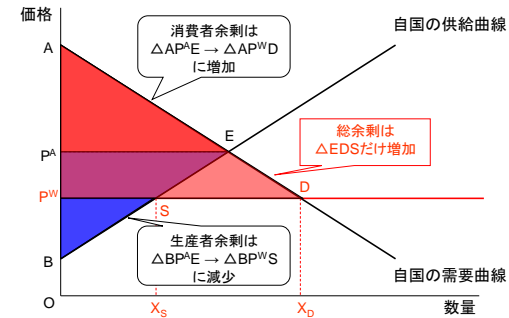
4

## 貿易利益(つづき)

- この国が外国と貿易を開始
  - 財の国際市場での価格を $p^w$ とする
  - $p^w$ は所与とする(「小国」の仮定)
  - 国内の消費者と企業はこの国際価格で取引を行う
    - 国内価格  $> p^w$ だと、外国の生産者がこの国の市場にいくらでも供給しようとする → 国内価格は下落
    - 国内価格  $< p^w$ だと、海外からこの国の市場に供給が行われなくなる → 国内市場で超過需要が発生し、価格は上昇
- $p^w \neq p^A$ のとき、この国は貿易を行う
- 輸出国であっても輸入国であっても、総余剰は閉鎖経済のときと比べて増加
  - ただし、その内訳は異なる

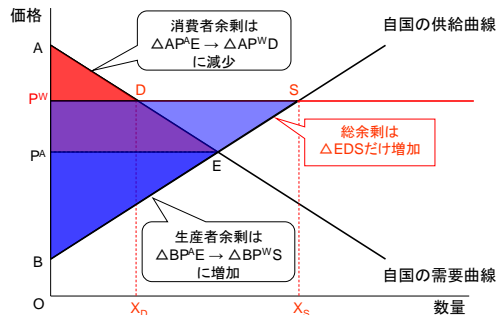
5

## 貿易利益:輸入国のケース



6

## 貿易利益:輸出国のケース



7

## 貿易利益:まとめ

- 輸入国のケース
  - 消費者余剰は増加: もともと購入していた消費者の余剰↑ & 新たな消費者が購入することによる余剰の発生
  - 生産者余剰は減少: 輸入品との競争に敗れて市場から退出する国内生産者の余剰の消失 & 残った国内生産者の余剰↓
  - 消費者余剰の増加分  $>$  生産者余剰の減少分
- 輸出国のケース
  - 消費者余剰は減少
  - 生産者余剰は増加
  - 消費者余剰の減少分  $<$  生産者余剰の増加分
- 貿易自由化は国全体としては総余剰↑だが、国民すべてにとって望ましいわけではない

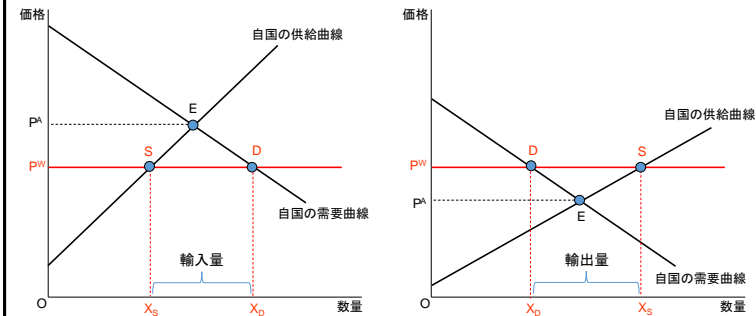
8

## 貿易パターンの決定

- ある財の生産 < 消費 → その財を輸入
  - 外国よりもその財を少なく生産or多く消費
  - 部分均衡:  $P^A > P^W$  のケース
- ある財の生産 > 消費 → その財を輸出
  - 外国よりもその財を多く生産or少なく消費
  - 部分均衡:  $P^A < P^W$  のケース

9

## 貿易パターンの決定: 小国のケース



10

## 貿易パターンの決定: 大国のケース

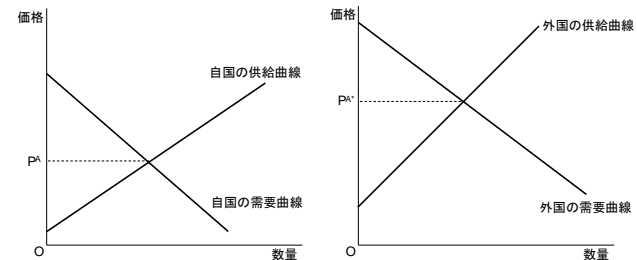
- 自国と外国の2国から成る世界経済を想定
- 貿易取引の際に輸送費や保険料などが無いと仮定 → 自由貿易下では両国の消費者と生産者は同じ価格に直面
- 世界市場の需給一致条件:
 

$$\text{自国の国内需要量} + \text{外国の国内需要量} = \text{自国の国内供給量} + \text{外国の国内供給量}$$
- → 自由貿易下の均衡価格の決定

11

## 貿易パターンの決定: 大国のケース(つづき)

- 閉鎖経済(貿易開始前)における各国の均衡価格:  $P^A < P^A^*$  とする
  - 両国における生産技術や需要パターンの違いから、異なる均衡価格



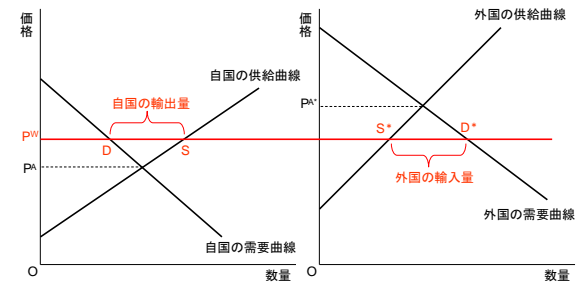
12

## 貿易パターンの決定: 大国のケース(つづき)

- 小国ケースの結果 → 貿易パターン: 自国が外国に財を輸出
- 閉鎖経済(貿易開始前)における各国の均衡価格:  $P^A < P^{A*}$  とする
  - 両国における生産技術や需要パターンの違いから、異なる均衡価格
- 世界市場の需給一致条件を変形 → 輸出国の輸出量 = 輸入国の輸入量
  - 国内需要(供給)量 - 国内供給(需要)量 = 輸入(輸出)量
- 自由貿易の下での均衡価格  $P^W$ : 「自国の輸出量 = 外国の輸入量」となるように決定
  - $P^A < P^W < P^{A*}$  が成立

13

## 貿易パターンの決定: 大国のケース(つづき)



14

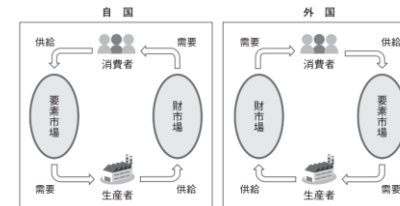
## 一般均衡モデルによる分析

- 今までの議論: 部分均衡分析
  - ある1つの財の市場に着目
  - 他の財の市場や生産要素の市場の状況は考慮に入れない
- 一般均衡分析: すべての市場の相互関連を考慮
  - 国々が相互に財を輸出・輸入する状況: 複数の財が取引される
  - 財の生産には、労働や資本など生産要素の投入が必要

15

## 一般均衡分析: 閉鎖経済

- 閉鎖経済における財や生産要素の流れ:

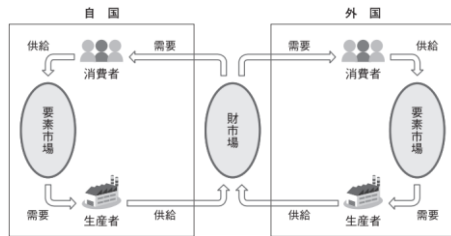


- すべての財や生産要素の均衡価格: 国内市場の需給バランスで決定

16

## 一般均衡分析: 開放経済

- 開放経済における財や生産要素の流れ:



- 財: 国家間を移動可能
- 生産要素: 国家間を移動不可能

17

## 一般均衡モデルによる分析(つづき)

- 市場の需給一致条件からは、財や生産要素の名目価格は決まらず、**相対価格のみが決定**
  - 相対価格: 他の財の価格との比率
- 名目価格が決まらない理由: **ワルラス法則**
  - すべての経済主体の予算制約が満たされていれば、すべての市場の超過需要の価値額の合計は必ず0
- 2財(第1財と第2財)・1生産要素(労働)を想定
  - $P_1(C_1 - X_1) + P_2(C_2 - X_2) + W^H(L_D - L_S) = 0$ 
    - 財1の超過需要    財2の超過需要    労働の超過需要
  - 第2財を価値基準財(ニューメレール)として、第1財の相対価格  $P_1/P_2$  と実質賃金率  $W^H/P_2$  が決定

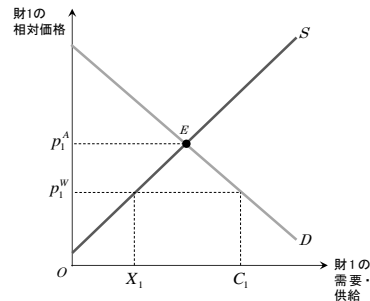
18

## 一般均衡モデルによる分析(つづき)

- 2財モデル
  - 国内の生産要素市場は均衡していることを前提
- 財2を価値基準財として、財1の相対価格と需要・供給の関係を需要曲線・供給曲線で表す
- 財1の国際相対価格:  $p_1^W$  とする → この国は第1財を輸入
- ワルラス法則から、
 

第1財の輸入額 = 第2財の輸出額

  - $p_1^W(C_1 - X_1) + (C_2 - X_2) + w^H(L_D^H - L_S^H) = 0$



19

## 閉鎖経済・自由貿易の均衡と比較優位(つづき)

- 閉鎖経済(貿易開始前)における各国の均衡価格:  $p_1^A < p_1^{A*}$  とする
  - 自国の第1財の相対価格 < 外国の第1財の相対価格
  - 自国の第2財の相対価格 > 外国の第2財の相対価格
- このとき、「自国(外国)は第1財(第2財)に比較優位を持ち、第2財(第1財)に比較劣位を持つ」という
- 貿易を開始すると、
  - 自国: 第1財を輸出し第2財を輸入、外国: 第1財を輸入し第2財を輸出
- 各国は比較優位を持つ財を輸出
- 比較優位を決めるものは何か?
  - 生産技術(リカード・モデル)
  - 生産要素の賦存状況(ヘクシャー=オリーン・モデル)

20